

デジタル教科書指導案／地理的分野

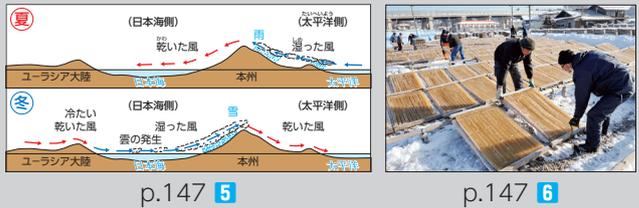
1. 題材 p.146-147 日本の気候
2. 目標
 - (1) 日本の気候の特色を世界の気候帯との関わりから理解できる。
 - (2) 日本の気候を北と南、太平洋側と日本海側、内陸部と沿岸部などの視点から区分し、それぞれの気候区分の特色を雨温図から考察できる。
3. 章・節の評価規準例につながる指導のポイント

評価との関連	指導のポイント
知識・技能	・温帯と亜寒帯に属する日本の気候の特色を、四季の違いに着目して理解している。
思考・判断・表現	・地域により気候が異なる理由を、気候区分図や雨温図などを活用し、地形や緯度、海流、季節風などから多面的・多角的に考察している。

4. 指導過程

	学習内容・学習活動	資料・発問	留意点(○)・指導のポイント(◆)
導入	1. 2月の北海道と沖縄の写真を題材にし、本時の課題をつかむ。 2. 北海道と沖縄の気候が大きく異なる理由を予想し、学習課題への見通しを持つ。	 <p>p.146 1 p.146 2</p> <p>北海道と沖縄の2月の気候の特色を説明してみよう。</p> <p>北海道と沖縄の2月の気候が大きく異なっている理由を予想してみよう。</p>	○ 北海道と沖縄の写真を比較し、気付いたことを発表させながら、本時への導入を図る。 ○ 同じ2月でも、北海道と沖縄では気候が大きく異なる理由を予想させる。 ○ 「学習前の予想」へ記入させ、本時の学習展開の見通しを持たせる。
学習課題：日本各地の気候を比較すると、地域によってどのような違いがあるのだろうか。			
展開	3. 気候の違いを生む要因を考え、地域により気候の特色に違いがあることを理解する。 (1) 気候の違いを生む要因	 <p>p.147 4 (上)</p> <p>2月の北海道の気候が、沖縄の気候と大きく異なる理由を挙げてみよう。</p> <p>北海道と沖縄の気候の違いのほかに、日本の気候の地域的な違いを挙げてみよう。</p>	○ 「日本の気候区分」の図から、気候の違いが生まれる要因を読み取らせる。 ◆ 2月の北海道の気候が、沖縄の気候と大きく異なることについて、北海道は沖縄よりも緯度が高いなどの要因があることを理解させる。 ○ 緯度の違いのほかにみられる、日本の気候の地域的な違いについて読み取らせる。 ◆ 太平洋側と日本海側の違いや季節風の影響が少ない地域などに気付かせる。

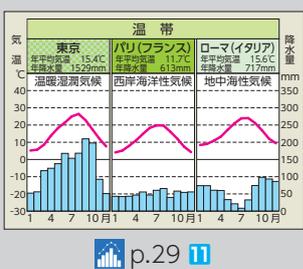
(2) 地域による
気候の違い



太平洋側と日本海側の気候の違いについて、図から読み取れることを挙げてみよう。

寒天作りには、どのような気候が適しているのだろうか。

(3) 日本の気候の
特色



世界の温帯の地域と比べ、東京の気候の特色を挙げてみよう。



なぜ、温帯の中でも、日本の降水量が多いのだろうか。



日本の各都市の気候の特色を、気温と降水量に注目して説明してみよう。

4. 日本の六つの気候
区分の特色を理解する。

○ 日本海側と太平洋側で気候が異なる理由を考えさせる。

◆ 山脈の風上側で降水が多くなると季節風の影響を考察させる。

○ 写真から内陸の気候の特色を考えさせる。

◆ 寒天作りは、雨が少なく、昼と夜の気温差が大きい内陸の気候が適していることに気付かせる。

◆ 日本の気候は、ケッペンの気候区分の温帯と亜寒帯に属していることを理解させる。

○ 世界の温帯の地域と比較したときの、東京の気候の特色を考えさせる。

◆ 夏と冬の気温の差が大きく、年間の降水量が多いことに気付かせる。

○ 東京は、温帯の中でも降水量が多く、夏と冬の気温の差が大きいことに気付かせ、その理由を考えさせる。

◆ 東京は、夏の季節風や梅雨、台風などの影響により、降水量が多いことを考察させる。

○ 学習プリントを活用し、那覇・岡山・松本・名古屋・上越・千歳の気候の特色をまとめさせる。

◆ それぞれの都市の気候の特色を、気温と降水量に着目させて理解させる。

5. 本時のまとめをする。

太平洋側と日本海側とで降水量の多い季節が異なる理由を、山地と季節風の向きに着目して説明しよう。

◆ 太平洋側と日本海側の季節による降水量の違いについて、中央部の標高が高い日本列島の地形の特色と、夏と冬の季節風の向きに着目して説明できたか確認する。

6. 学習課題への振り返りの活動を行う。

「学習後の振り返り」の欄に記入してみよう。

○ 「学習後の振り返り」へ記入させ、「学習前の予想」と比較させる。